



2019・6・1

第 340 号

101-0065 東京都千代田区
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

3000 万人署名達成こそ、参院選勝利の保障

憲法審査会の攻防つづく

衆院憲法審査会は定例日の 30 日に幹事懇談会を開きましたが、自民党の新藤義孝議員が改めて与党提出の国民投票法案の質疑をおこなうよう求めたことにたいし、立憲民主党の山花郁夫議員が「CM 問題での参考人質疑が先だ。国民民主党が提出した国民投票法案も与党案と一緒に議論すべき」と主張、引き続き協議することに。

憲法審査会の定例日は木曜日で今国会の会期中はあと 3 回。自民党は引き続き質疑と採決を求める構えです。

5 野党・会派が 30 の 1 人区で一本化

立憲民主党の枝野幸男代表、国民民主党の玉木雄一郎代表、日本共産党の志位和夫委員長、社民等の福島瑞穂副党首、衆院会派「社会保障を立て直す国民会議」の野田佳彦代表は 29 日、国会内で会談し、全国 32 ある参院選 1 人区のうち 19 選挙区で野党統一候補を擁立することで合意。この結果、統一候補は合意済みを合わせて 30 選挙区となり、残る鹿児島、宮崎両区でも早期合意をめざすとしています。

さらに共通政策についても、同日、「安保

法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合」から戦争法廃止を始め 13 項目の政策の要望を受けて、各党首は署名しました。

道選挙区 3 候補も参加し交流

【北海道／九条ネットワーク北海道】「安倍 9 条改憲を許さないと一致する野党が 3 人区の参院選北海道で勝利し、安倍政権に審判を下そう」一。北海道各地の 9 条の会で作る「九条ネットワーク北海道」は 25 日、経験交流集会を札幌市で開き、道選挙区に立つ野党 3 候補が出席しました。

九条ネットの吉田一夫共同代表が主催者あいさつ。「安倍政権の改憲が加速し、同時選挙の動きが強まる中、改憲許すなの声は日増しに高まっている。選挙で勝利して、安倍政治を退陣へ」と呼びかけました。

立憲民主党の勝部賢志候補は「憲法をないがしろにする安倍政権が改憲を進めること自体おかしいこと」と批判。国民民主党の原谷那美候補は「安倍政権の横暴を許さない、与党を少数に追い込み野党が大きくなるのが大事」と語りました。日本共産党の、はたやま和也候補は、「日本維新の会に所属していた丸山穂高衆院議員の「北方

領土返還には戦争しないと」との暴言を厳しく批判、「北海道でも野党が心を一つに改憲推進勢力を少数に追い込み、3議席すべてをとる決意でたたかおう」と訴えました。

有権者の半数の目標を達成

【長野県栄村／栄村九条の会等】 この4月1日現在人口1828人の栄村で、安倍9条改憲反対3000万人署名が有権者半数に相当する800人に達しました。取り組んでいるのは栄村の九条の会、農民組合、新婦人の会、共産党で構成する「戦争反対・憲法を守る栄村実行委員会」で、九条の会が署名の集約にあたっています。事務局の杉浦恵子さんは、4月末から「あと20筆」「あと10筆」と会員に到達を知らせ「800にこぎつけた」といいます。

継続の力となったのは年4回の九条の会の例会での学習会。この会合で「スタンディングの際にスピーチしたらどうか」の意見が出て、軽トラにアンプを積んでリレートークに挑戦。「子どもたちに平和な社会を手渡すのはおとなの責任」「74年間ひとりも殺さず、殺されなかったのは憲法があったから」などと訴えてきました。スタンディングは農繁期の5月から。朝の8時からで10人～15人が参加します。域内を軽トラを連ねてのパレードもおこなってきました。

会代表の高橋彦芳・元村長は「改憲のねらいは9条に自衛隊を書き込むこと。そんなことは絶対にダメだ」と引き続き奮闘することになっています。

2年前とは駅頭の反応にも大きな違い

【札幌市手稲区／新発寒九条の会】 当会

の世話人会では、2月に出された全国の九条の会の「アピール」に応じて、「安倍9条改憲No.！3000万人署名」の取り組みを、「もうひとまわり」と会員の皆さんにお願いしています。

4/13、4/20、5/11の土曜日は、選挙の間を縫って各戸訪問。世話人を中心に延べ121名で198軒を訪問、116軒と対話ができ、31筆の署名をいただき、7名の方が「九条の会」の読者会員になりました。

つづいて平日は、大型連休をはさんで、手稲駅等行動を連日のように組みました（行動日4/22～26、延べ参加26人、署名数104）。時間帯が重なったせいか高校生との対話が多くできました。

2年前にこの署名が始まった時と比べれば、駅頭での皆さんの反応は大違いです。遠くから駆け寄ってくる人、いつもここにたっているねと声をかけてくれる人、人ごとでない耳を傾けてくれる若い人等々。「北朝鮮が…、中国が…」と安倍首相が日本を海外で戦争できる国にしようとしていることへの心配が皆さんの口から出てきます。国民は改憲を望んでなどいないことははっきりわかります。（「新発寒九条の会つうしん」第91号）

実行委員会結成し署名推進

【山形県米沢地域／平和のつどい実行委員会】 安倍首相が参院選で改憲を争点化しようとしているなか、平和のつどい実行委員会は25日、西部コミュニティーセンター周辺の世帯を訪問し、安倍9条改憲No.！3000万人署名行動に取り組みました。

「日本国憲法前文」のうたごえを響かせ

た宣伝カーが巡回し、2人1組で訪問。

五十嵐きよみ実行委員長と長沢妙子さんの組は「戦争をしないために署名をお願いにきました」と、23世帯を訪問し16人と会話、12人が署名に応じました。

署名した人は「戦争だけはやんだ」「安倍総理は困ったものだ」「宣伝カーが2度、周ってきた」と語りました。

米沢地域で2万人の署名を集めようと昨年4月、13団体が結集して平和のつどい実行委員会を結成。9条の会、新日本婦人の会などが加盟し、「9」のつく日はスタンディング、月に2回ほどの訪問署名に1回の実行委員会を開きながら運営しています。

73年戦争しなかったのは憲法のおかげ

【兵庫県尼崎市／市民アクション立花】

「安倍9条改憲No! 全国市民アクション立花」は19日夕、兵庫県尼崎市のJR立花駅南回廊で定例の3000万人署名宣伝に取り組み、安倍首相が参院選挙で憲法改定を正面から掲げてたたかうと表明するなど改憲に前のめりになっていることを訴え、

「安倍政権による憲法改定を許さないために、ぜひ署名を」と呼びかけました。

日曜日で行楽帰りの家族連れが多く、「尖閣諸島を中国から守るためには、日本も空母を持つことが必要」と言う中年男性が「73年間、戦争がなかったのは9条のおかげ、9条は大事」と言う署名するなど、24人の9条署名が寄せられました。

自衛隊は米軍の下で実戦訓練

【千葉県流山市／九条の会・流山】 九条の会・流山は18日、流山市生涯学習センタ

ーで、憲法集会を開き、会場いっぱいの約180人が参加しました。

集会では、元陸上自衛隊レンジャー隊員でベテランズ・フォー・ピース・ジャパン共同代表の井筒高雄氏が「憲法9条の改憲は自衛隊のためなのか」と題して講演しました。

井筒氏は、2015年に改編された「日米新ガイドライン」や安保法制の成立で米軍の指揮のもとで自衛隊は実戦部隊として訓練が行われていると指摘。自衛隊員のおかれている人権や命の保障、殉職したときの家族への補償などないに等しいと強調しました。その上で、自民党9条改憲案で自衛隊を書き込むことや、「緊急事態条項」の危険性を強調し、「軍事の理屈を押し通すことが優先される世界は、多様性、基本的人権がなくなり、今の社会とあまりにも違う世界がつくられる」と指摘し、「自衛隊も憲法9条に守られていることを議論し、直近の選挙で、安保法制廃止、改憲反対の2点で共に行動しよう」と呼びかけました。

朝鮮人強制労働の悲惨さ

【香川県坂出市／9条の会坂出】 9条の会坂出と、さかいで革新懇は19日、記念講演会を開き、60名が参加しました。元高校教諭で高松空襲を記録する取り組みを続ける浄土卓也氏（80）が、香川・直島の精錬所での朝鮮人の強制労働、徴用工問題について講演しました。

浄土氏は直島での朝鮮人強制労働の実態を説明するとともに、取り組みのきっかけを「高松空襲を調べるうちに朝鮮人も犠牲になっていた。なぜかと思って調べ始めた」

と紹介。日本政府は一度も正式に補償や謝罪をしていない、日韓基本条約も結び直さないといけない」と話しました。

参加した三豊市の男性（84）は「自分は観音寺で戦争を体験しました、このような話を聞くことが大切です。戦争は二度と繰り返してはいけません。9条を守りたいと改めて思いました」と話しました。

『3000万署名』—私のやり方

奈良県・憲法九条の会生駒 谷山 清

私は、自分の体調に照らしこの大切な活動に参加し続けることができず、仲間の皆さんに濟まない思いでいっぱいです。そこで、自分はどうしたらこの運動に関わることができるかを考え、これまで交流のあった中で、この人に頼んだら…という方を見つけ、協力してもらおう方法を思いつき、2017年12月から始めることにしました。

もう10年も前、「核兵器廃絶」の国際会議がアメリカで開かれたときに「核兵器全廃」の署名を代表が持っていくということで、私は生駒市民12万人の1%に当たる1,200人分を集めようと目標をたてて取り組んだ経験から、「3,000万署名」も頑張ろう、と思ったのです。

しかし、90歳を越した今、1,200筆は無理なのでせめて500筆を…と目標を低く設定して、取り組みを始めました。

＜その1＞これまでの巡り会いを活かし協力をお願い。

対象者は次の4通りです。

①私は40年間、小学校の教師をしていたので、多くの教え子に巡り会えました。

今でも毎年、年賀状をくれる教え子180人ほの中から、この子なら賛同してくれるだろうと55人に手紙。48人が応じ269筆。

②元職場で一緒に働いた仲間の中で、この人はという12人。10人が応じ98筆。

③「奈良作文の会」（1948年に発足し60年間続いている）で共に活動してきた人たち、また退職後19年間、郷土作文教育月刊紙「学びの園」に協力してくださった方々、合わせて16名が応じて160筆。

④私のクラスに来た教育実習生で、その後もずっと交流が続いている3人の90筆。

＜その2＞ 直接に足を運び呼びかけました。

①退職後、「生駒テニス愛好会」に入れてもらい、19年間一緒にさせてもらい、退会後も親しくさせてもらっている方。50筆。

②2ヵ月に一度くらい訪れる大阪つるはしで朝鮮人参を扱っておられる「日和堂」のおばさん。185筆。

③通院している2つの病院の院長さん。

8筆。④地域で親しくお付き合いしている方6人。

⑤教え子の同窓会で35筆。⑥講演を頼まれ、役目を果たした時に。62筆。

⑦親類50筆。⑧その他、167筆。

この方法での取り組みの成果は次の通りです。 合計530筆

以上、＜その1＞と＜その2＞を全て合わせて計1,147筆です（2019年4月9日現在）。

はじめに目標とした500筆の2倍以上に達し、我ながらよく集めることができ、何より、協力して下さった方々に心から感謝の念を表さねばと思います。